

今週（1月5日から1月9日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続き調達ニーズが堅調に見られるなか、出会いの水準は0.727～0.728%を中心とった。加重平均レートは、8日(木)に試し取りの影響で0.729%となったものの、5日(月)～7日(水)は0.727%で推移しており、9日(金)も概ね同水準での取引が中心となった。

ターム物は、保険業態による付利金利以下の運用と証券業態による実需での調達が中心となり、0.7%台前半～0.9%台前半で出会いが見られた。また、3M以上のロングタームでは一部の証券業態の調達ニーズが強く、積極的にレートを引き上げる動きが散見された。

日銀当座預金残高は、週初471兆円程度からスタートし、7日(水)には税揚げや国債発行により466兆円程度まで減少したが、その後は国債買入オペなどにより467兆円程度での着地見込みとなった。

●債券レポ市場

今週のGC O/N物は0.74～0.755%近辺で推移した。

SC取引の個別銘柄では、カレント近辺の銘柄に引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、1Yゾーンが強含みで推移した。

6日(火)に実施された3M物入札は無難な結果となったが、結果発表後のセカンダリーでは強含みで推移した。

8日(木)に実施された6M物入札は事前予想よりも強い結果となり、結果発表後のセカンダリーでも堅調に推移した。

9日(金)に実施された3M物入札は事前予想よりも甘めの結果となったものの、結果発表後のセカンダリーでは底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、鉄鋼、卸売、建設等、複数の業態で大型発行が見られた。

市場残高は、四半期末要因により12月末に25兆円台から24兆4,000億円台まで低下したが、年明け1月5日に24兆9000億円台に回復して以降24兆円台後半で推移した。

発行レートは0.75%以上で推移し、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
1/5 (月)	51,832.80	2.116	157.24	0.727	0.750	4,714,400
1/6 (火)	52,518.08	2.120	156.67	0.727	0.749	4,719,400
1/7 (水)	51,961.98	2.120	156.61	0.727	0.745	4,661,300
1/8 (木)	51,117.26	2.075	156.77	0.729	0.742	4,681,500
1/9 (金)	51,939.89	2.090	157.06	0.727	0.750	4,674,000

来週（1月12日から1月16日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー（※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/12 (月)	成人の日				
1/13 (火)	11月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 12月の景気ウォッチャー調査(内閣府 14:00)				12月の米財政収支 12月の米消費者物価指数 9・10月の米新規住宅販売件数
1/14 (水)	12月のマネーストック(日銀 8:50)		5Y 1/15発行 25,000億円		米ページュブック 11月の米生産者物価指数 12月の米中古住宅販売件数 11月の米小売売上高 10月の米企業在庫
1/15 (木)	12月の企業物価指数(日銀 8:50)			交付税借入 1/23借入 13,000億円	
1/16 (金)		TDB3M 1/19発行 47,000億円	流動性供給 1/19発行 6,500億円		12月の米鉱工業生産

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/12 (月)									
1/13 (火) 日銀予想	2,200	▲ 9,000	▲ 6,800	国債補完	5,800		5,800	▲ 1,000	TDB3M発行▲47,000 債還43,000 TDB6M発行▲38,000 債還35,000
1/14 (水) 弊社予想	2,000	▲ 13,000	▲ 11,000				0	▲ 11,000	
1/15 (木) 弊社予想	2,000	▲ 28,000	▲ 26,000				0	▲ 26,000	源泉税揚げ（大幅） 5Y発行▲25,000 個人向け発行▲5,000 債還900
1/16 (金) 弊社予想	1,000	▲ 3,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	交付税借入▲13,000 期日11,000
週間合計	7,200	▲ 53,000	▲ 45,800	—	5,800	0	5,800	▲ 40,000	

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き堅調な資金調達ニーズが見込まれるため、0.725～0.728%程度での出合いが中心になると予想される。債券レポ GC T/N物のレートは0.70～0.75%程度の水準で推移することが予想される。短国市場は、16日(金)に3M物入札が予定されている。CP市場では、15日・20日スタートの発行日を含む週となり、動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、13日(火)に11月の国際収支、15日(木)に12月の企業物価指数、海外では、13日(火)に12月の米消費者物価指数、14日(水)に11月の米生産者物価指数、11月の米小売売上高などの公表が予定されている。（※尚、米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入